

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

みつばちハウス

日付 平成 21年 3月 31日
特定非営利活動法人

評価機関名

ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験8年

評価調査員 介護職経験10年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

田園風景の中にあるこのホームは赤色と空色の建物でひと際目を引く。三階に広い屋上があり、天候が好ければ景色を眺めたり日光浴や運動ができて、気持ちがいい。

一階と二階がそれぞれ「すみれ」と「なのはな」のユニットで、両ユニットを管理する管理者は1人だが、ユニット毎にリーダーが中心となって利用者のケアに当たっている。両ユニットは、行事などは同じ事をするが、利用者の特徴や要介護レベルの違いもあり、その取り組み方はユニット独自である。一階のすみれユニットの方が軽症の人が多く、料理の手伝いをするなど自分から何かに取り組む利用者がいたり、利用者同士がお互い言いたいことを言って仲良く楽しく暮らしている。二階のなのはなユニットの利用者も、年月の経過と共に少しずつ重度化が進んでいるものの、まだまだ色々なことに取り組み、利用者同士がゆったりと仲良く過ごすことができ、とても和やかな雰囲気が微笑ましい。

どちらのユニットでも、職員は利用者一人ひとりの経歴や能力を十分把握し、利用者の思いを十分理解して介護計画を立て、それに基づいて適切な支援をしている。利用者の自発的な動きはそっと見守り、できないことやわからないことには声かけして励ましたり、したいことを聞き出して取り組ませてあげたりしている。その結果、利用者は自分の思いを達成でき、充実した気持ちで過ごすことができている。こうした支援内容を、新しく作成した様式で記録に残し、日々ケアの向上に努めている。

地域交流にも積極的に取り組み、小学校、幼稚園、町内会などとの交流ができ、利用者の社会とのつながりを持つことができている。

特に改善の余地があると思われる点

現在は職員が利用者の気持ちを受け止めて、思い思いに過ごしてもらい、充実して穏やかな生活ができている。このホームに今後問題となってくると思われるのが、利用者の重度化である。年月の経過と共に重度化は避けられないことであるが、利用者がどんな状態になっても、孤立させることなくリハビリを続けながら、いつまでも一人の人間として暖かく接してほしい。会話ができなくなっても、寄り添って人とのつながりを持たせ、歩行できなくても手足の運動や口腔のケアやリハビリを行うことにより、廃用症候群や誤嚥性肺炎になることを防いでほしい。

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：理念について毎年職員間で話し合っており、問題となる点はない。</p> <p>2. 全体を通して…：個人を尊重し、認知症があっても普通の生活が送れるように支援し、明るく和やかに生活できることを目指している。その取り組みとして、利用者の自主的な動きを見守り、できないことわからないことには声かけをして支援している。その人に適した支援を適時に行っている。また、外出や地域交流を積極的に行い、利用者和社会とのつながりを持っている。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：特に改善した項目はないが、転倒防止への安全対策として床にセンサーマットを入れた居室もある。</p> <p>2. 全体を通して…：リビングルームにはテーブルやソファがあり、利用者は好きな場所で自由に過ごし、広い廊下では歩行訓練をしている。トイレは居室の隣に2人に1つあり、自分のトイレとして使える。リビングルームの壁や居室入口には職員手作りの飾りや利用者の作品、日常を写した写真などが貼ってあり、楽しく過ごせるようにという職員の心遣いがある。広い屋上は眺めがよく、天候が好ければ催し物も出来るし運動や日光浴もできる。この広場を心身の健康維持のために十分活用してほしい。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：項目としての改善ではないが、介護記録の様式を新たに作り直し、その日の日課とケアプランの実施内容が一目でわかるようにし、しかも職員にとっては記録しやすさばらしい記録ができている。</p> <p>2. 全体を通して…：年月の経過と共に少しずつ利用者の重度化が進んできてはいるものの、全体としてはとても穏やかに落ち着いた生活を送ることができている。両ユニットに於いても利用者がいろいろなことに取り組んでいたり、仲良く安心した表情で過ごしたりすることができている。職員が利用者一人ひとりの能力や経歴を十分知り、その思いをしっかりと受け止めてあげていることで、こうした穏やかな生活が生まれると思う。前もってしっかり介護計画を立て、その時々で必要な支援が何かをしっかりと見極めている。見守りをする時と声をかけて何かをしてもらう時、また何をしてもらうかの見極めである。その結果により、利用者は自由な中にも自分の充実した時間を過ごすことができている。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：家族の意見を聞き出すために、家族参加行事の後に職員との話し合いの時間を設けることを新たに始めた。今後の成果を期待する。毎年外部評価の指摘事項を積極的に改善しており、職員のサービス向上への努力には感服する。</p> <p>2. 全体を通して…：法人内のグループホーム会議や主任者会議に管理者が出席し、法人全体でケアレベル向上に努めている。家族にはユニットと法人のたよりを送って利用者の様子を知らせ、家族も個人的な面会や家族参加行事でホームをよく訪れ、ホームと連携して利用者を支えている。地域住民との交流も運営推進会議を通して、行事に招待したりされたりの関係ができている。ホームに来てもらうことにより、グループホームの良さを知ってもらい、認知症への理解を深めてもらうことが出来ると思う。今後も地域への啓発に向けてさらなる取り組みを期待する。</p>		